## 授業科目　高次脳機能障害学

| 【担当教員名】 | 対象学年 | 3 | 対象学科 | 言語 |
|---|---|---|---|---|
| 今村　徹 | 開講時期 | 前期 | 必修･選択 | 必修 |
| | 単位数 | 2 | 時間数 | 30 |

【<概要>】
ヒトの脳は一次的な運動・感覚機能だけではなく，日常生活や社会生活をおくるために必要な記憶，注意，計算，思考，判断，学習などの機能を担っている．これらを認知機能（または高次機能）と総称する．本科目では成人の認知機能障害の診断と評価を学ぶ．現在の臨床現場では，急性期，慢性期を問わず驚くほど多数の患者が，さまざまな認知機能障害を診断・評価されないまま，不十分な治療・看護・介護・療養環境に甘んじている．認知機能障害を診断・評価できる人材のニーズは大きく，言語聴覚士も認知機能障害全般のコンサルテーションを受ける専門職（神経心理士）としての役割を求められる．本科目はそのような臨床現場のニーズに応えるための入門講座である．

【<学習目標>】
①代表的な認知機能障害の症候学とその機序を理解する．②患者の認知機能障害を診察して症候群として把握できる．③把握した認知機能障害を適切な検査・テストで描出できる．④患者の認知機能障害に関する情報をまとめ，提示することができる．

| 回数 | 授業計画又は学習の主題 | | 学習方法･学習課題又は備考 |
|---|---|---|---|
| | | (A) 学習の主題<br>以下の主題のうち4項目をとりあげる予定である．<br>・診察→検査→解釈：認知機能障害の評価の流れ<br>・健忘症候群<br>・前頭葉症候群<br>・右半球症候群<br>・痴呆（認知症）<br>・視覚認知障害の症候群<br><br>(B) 学習方法<br>各主題について以下の形式の授業を組み合わせて行う<br>授業科目名にはうたっていないが演習を含む<br>1) 教員による講義<br>2) 学生による課題発表（ゼミ形式）<br>3) 患者診察と評価（学外施設にて）<br>4) 症例発表会（診察評価を行った患者について）<br>2)，3)，4) は学生数名からなる小グループ単位で行う | 担当教員：今村　徹 |

| 【使用図書】 | <書名> | <著者名> | <発行所> | <発行年･価格･その他> |
|---|---|---|---|---|
| 教科書 | 神経心理学入門 | 山鳥重 | 医学書院 | 1985年．6400円． |
| | 脳損傷の理解：神経心理学的アプローチ | 鈴木匡子訳 | MEDSI | 1993年．5800円． |
| 参考書 | 脳からみた心 | 山鳥重 | 日本放送出版協会 | 1985年．970円． |
| | 事例でみる神経心理学的リハビリテーション | 鎌倉ら訳 | 三輪書店 | 2003年，5600円 |
| | 高次脳機能障害学 | 石合純夫 | 医歯薬出版 | 2003年．4200円． |
| その他の資料 | 適宜配布する | | | |

【評価方法】
課題と症例の発表に合格した学生にレポートを課す．提出されたレポートの評価点を最終の成績評価とする．

【履修上の留意点】